

国際関連情報 国際会議等

# 日中韓三カ国会議報告

ASBJ シニア・プロジェクト・マネージャー かわにし まさひろ  
**川西 昌博**

## I. はじめに

2015年11月23日に、第15回日中韓三カ国会計基準設定主体会議（以下「本会議」という。）が、韓国のソウルにおいて開催された。本会議は、アジアの近隣三カ国の会計基準設定主体者間で、内外のさまざまな問題について認識を共有し、意見交換を行うことを目的としてスタートしたもので、今回で15回目となった。

本会議には、中国から中国財政部会計司及び中国会計準則委員会（CASC）の Yibin Gao 司長、韓国から韓国会計基準委員会（KASB）の Jee In Jang 委員長以下が出席したほか、企業会計基準委員会（ASBJ）からは、小野委員長、小賀坂副委員長、関口常勤委員、筆者の4名が出席した。また、国際会計基準審議会（IASB）から Ian Mackintosh 副議長、鷲地理事、Wei-Guo Zhang 理事、Chungwoo Suh 理事、香港公認会計士協会（HKICPA）から Clement Chan 委員長等、マカオ監査人会計士登録委員会（CRAC）から Chi Chung Yung 委員等も参加し、総勢30名程度による議論が行われた。

## II. 議論の概要

本会議においては、KASB の Jee In Jang 委員長等による挨拶の後、三カ国の代表者から、会計基準に関する各国の動向について近況報告がなされ、ASBJ の代表者からは、国際財務報告基準（IFRS）の任意適用企業の増加、修正国際基準の公表及び IFRS 適用課題対応専門委員会の設置等について説明がなされた。

次に、特別セッションとして、高麗大学校の Seok Woo Jeong 教授より、韓国における伝統的な簿記の方法である Sa-Gae-Song-Do 法について、その起源や方法論について説明がなされ、またイタリアで15世紀に発明された複式簿記より古くから存在していた可能性があるという説明がなされた。

また、テクニカルセッションとして、IASB で審議されている次の(1)~(3)のプロジェクトに対して、各会計基準設定主体による見解について意見交換や質疑応答が行われた。各プロジェクトに関する議論の概要は、次のとおりである。

### (1) 排出物価格設定メカニズム

IASB によってリサーチ活動が行われている排出物価格設定メカニズムのプロジェクトにつ

いて、CASCの代表者がリードするかたちで議論が行われた。議論に当たって、CASCの代表者から、中国における最近の排出権取引制度の拡大、2015年に再開されたアジア・オセアニア会計基準設定主体グループ(AOSSG)における排出物価格設定メカニズムの作業グループにおける取組み、IASBによる排出物価格設定メカニズムのプロジェクトの状況(会計基準アドバイザー・フォーラム(ASAF)会議における議論を含む)及びキャップ・アンド・トレード型の排出権取引制度の会計処理に関するCASCによる提案が説明された。

議論においては、ポイントとして、次の4つが挙げられた。

- 排出権取引制度から生じる排出枠及び関連する義務の性質並びにそれらの測定基礎
- 排出枠付与時点における純損益の認識の是非
- 排出物価格設定メカニズムの会計処理に影響に関する事業活動の役割
- 財務諸表における表示

三カ国とも排出枠付与時点においては純損益を認識すべきではないという見解が共有された。排出物価格設定メカニズムに関する事業活動の役割については、資産及び負債の測定に当たっては事業活動の役割を考慮するべきであるといった見解がある一方、事業活動の役割を考慮することは困難であるという見解も示された。また、公正価値測定を行うことに対する懸念や排出権取引制度に係る負債の会計処理の困難さに対する懸念も示された。今後も三カ国で協働してIASBによる排出物価格設定メカニズムのプロジェクトに貢献することが合意された。

## (2) 概念フレームワーク

IASBによって審議が行われている概念フレームワークのプロジェクトについて、ASBJの代表者がリードするかたちで議論が行われ

た。議論に当たって、ASBJの代表者から、IASBにより2015年5月に公表された公開草案「財務報告に関する概念フレームワーク」(以下「概念ED」という。)における主要な論点について説明があり、とりわけ純損益、負債の定義、認識規準に関するASBJの見解が紹介された。

議論においては、三カ国とも純損益は重要であり定義されるべきであるという見解が共有され、その他の包括利益の純損益へのリサイクリングが必要であるということについても見解が共有された。純損益を定義することの困難さに対する懸念や営業利益を定義すべきではないかという見解も示された。また、負債の定義に関連して、IASBによる資本の特徴を有する金融商品のプロジェクトの検討状況に対する懸念が示された。概念EDにおける認識規準については、蓋然性や不確実性に関する記載について懸念が共有された。今後も三カ国で協働してIASBによる概念フレームワークのプロジェクトに貢献することが合意された。

## (3) IFRS に対する影響分析

韓国におけるIFRSのエンドースメント・プロセスの一環で、IASBによる影響分析とは別に、KASBは影響分析を実施しており、本会議において、IFRSにおける影響分析について、KASBの代表者がリードするかたちで議論が行われた。議論に当たって、KASBの代表者から、IASB及びKASBによる影響分析の概要やKASBによるIFRS第9号「金融商品」に対する影響分析について説明がなされた。2014年7月に公表されたIFRS第9号については、K-IFRS第1109号の公開草案が2015年5月に公表され、7月まで当該公開草案に対するコメント期間となっていたが、そのコメント期間において実施された影響分析について説明がなされ、他国における影響分析も紹介され

た。

議論においては、適用前の影響分析について、定量的データが不足していることや利害関係者からの見解を収集することに困難な場合があるといった影響分析の困難さに対する懸念や、各国で新しいIFRSを適用するコストが便益を上回っていると判断される場合にはどのようなアクションをとるのかという点についてさまざまな見解が示された。

### Ⅲ. その他

本会議の閉会に当たり、KASBのJee In Jang委員長より、本会議において有意義な議論ができたことへの謝意が示され、今後も排出物価格設定メカニズムや概念フレームワークなどで三カ国が協働していくべきであるとの旨が示された。

次回の日中韓三カ国会議は、2016年10月下旬に日本で開催されることが予定されている。